

平成30年12月 教育委員会会議録(要旨)【12月28日(金)】

<p>〔開会の宣告〕 遠藤教育長</p>	<p>平成30年12月定例教育委員会会議を開会する。</p>
<p>〔会議の成立〕 遠藤教育長</p>	<p>本日は、私の他4人の委員が出席しているので、この会議は成立する。 会議録署名人は、泉委員と出川委員とする。</p>
<p>〔就任挨拶〕 遠藤教育長</p>	<p>本日の議事に移る前に、一言挨拶申し上げます。 12月15日付けで、2期目の教育長としての辞令を頂戴した。昨年4月に教育長に就任し、熊本地震からの復旧をはじめ、教職員の働き方改革、ICTの導入、英語教育の充実など、様々な取り組みを行ってきた。その結果、熊本市の教育は大きく変わってきていると思う。特にICTは授業のやり方を大きく変えるような改革である。大きな予算も導入しており、今後3年間の任期で、子どもたちのためになる、よりよい学校づくりを進め、しっかりと学校改革の成果を形にすることが求められていると思う。委員の皆様とともに、協力して進めて参りたい。宜しくお願い申し上げます。</p>
<p>〔公開の審議〕 遠藤教育長</p>	<p>本日の会議日程について、議第74号及び75号については、「議会の議決を経るべき議案の原案の決定に関する事」に該当すること、議第76号については、「教育委員会に属する職員の任免その他の身分取扱に関する案件」に該当すること、協議(1)及び(2)については、「教育施策の意思決定過程中的案件」に該当することから、会議規則第13条に基づき非公開の審議が適当と考えるが、議第74号～76号、協議(1)及び(2)について、非公開に賛成の委員は、挙手をお願いする。  (全員挙手)</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>全員賛成により、議第74号～76号、協議(1)及び(2)については、非公開とする。</p>

平成30年12月 教育委員会会議録(要旨)【12月28日(金)】

<p>日程第1 前回会議録承認</p>	<p>遠藤教育長 11月21日開催の平成30年11月定例教育委員会会議録を承認することに異議があるか。</p> <p>(異議なしの声)</p> <p>遠藤教育長 異議なしと認め、前回の会議録を承認する。</p>																				
<p>日程第2 事務局報告</p>	<p>(1) 事業・行事等報告について</p> <p>前回会議(H30.11.21)以降の事業・行事報告(主なもの)</p> <table border="0"> <tr> <td>11月30日(金)</td> <td>臨時市議会</td> </tr> <tr> <td>12月 1日(土)</td> <td>博物館リニューアルオープン記念式典 一新幼稚園創立100周年記念式典</td> </tr> <tr> <td>11日(火)</td> <td>第4回定例市議会開会(～12月27日)</td> </tr> <tr> <td>21日(金)</td> <td>市立幼稚園・高校・特別支援学校終業式</td> </tr> <tr> <td>23日(日)</td> <td>全国高等学校駅伝競走大会</td> </tr> <tr> <td>25日(火)</td> <td>市立小・中学校終業式 熊本市一斉街頭指導出発式</td> </tr> </table> <p>今後の予定(主なもの)</p> <table border="0"> <tr> <td>1月 7日(月)</td> <td>市立小・中学校始業式 熊本市PTA協議会主催一斉あいさつ運動</td> </tr> <tr> <td>8日(火)</td> <td>幼稚園・高校・特別支援学校 始業式</td> </tr> <tr> <td>19日(土)</td> <td>平成30年度 日本教育会熊本県支部講演会</td> </tr> <tr> <td>22日(火)</td> <td>平成30年度 第2回指定都市教育委員会協議会</td> </tr> </table>	11月30日(金)	臨時市議会	12月 1日(土)	博物館リニューアルオープン記念式典 一新幼稚園創立100周年記念式典	11日(火)	第4回定例市議会開会(～12月27日)	21日(金)	市立幼稚園・高校・特別支援学校終業式	23日(日)	全国高等学校駅伝競走大会	25日(火)	市立小・中学校終業式 熊本市一斉街頭指導出発式	1月 7日(月)	市立小・中学校始業式 熊本市PTA協議会主催一斉あいさつ運動	8日(火)	幼稚園・高校・特別支援学校 始業式	19日(土)	平成30年度 日本教育会熊本県支部講演会	22日(火)	平成30年度 第2回指定都市教育委員会協議会
11月30日(金)	臨時市議会																				
12月 1日(土)	博物館リニューアルオープン記念式典 一新幼稚園創立100周年記念式典																				
11日(火)	第4回定例市議会開会(～12月27日)																				
21日(金)	市立幼稚園・高校・特別支援学校終業式																				
23日(日)	全国高等学校駅伝競走大会																				
25日(火)	市立小・中学校終業式 熊本市一斉街頭指導出発式																				
1月 7日(月)	市立小・中学校始業式 熊本市PTA協議会主催一斉あいさつ運動																				
8日(火)	幼稚園・高校・特別支援学校 始業式																				
19日(土)	平成30年度 日本教育会熊本県支部講演会																				
22日(火)	平成30年度 第2回指定都市教育委員会協議会																				
<p>日程第3 議 事</p>	<p>・議第73号 熊本市立小中学校の管理運営に関する規則の一部改正について</p> <p>《中村学務課長 提出理由説明》</p>																				

<p>西山委員</p>	<p>2組の小中学校において小中一貫教育を実施する理由と、それにより期待される効果をご説明いただきたい。</p>
<p>松島指導課長</p>	<p>本市には1小1中の校区が5校区あり、これらの校区においては小中一貫教育の導入が容易であり、優先的に実施することを考えている。富合校区は合併前の平成16年度から小中一貫教育を実施しており、下地が十分出来上がっていること、芳野校区では、既に小中合同の運動会を実施するなど小中合同の行事が進められており、導入が容易であることから、まず富合校区と芳野校区から導入をスタートするものである。</p> <p>小中一貫教育を実施する要件を、9年間小中共通の教育目標を設定すること、9年間を見通したカリキュラムを組むこと、小学校においても教科担任制を導入すること、の3点としており、これによって、他の学校の教職員の意識向上が期待される。</p>
<p>西山委員</p>	<p>小中一貫教育の導入は結構であるが、小学校と中学校の間の調整やカリキュラムの設定など、導入には多くの労力が必要であり、教員に負担がかかるのではないか。</p>
<p>松島課長</p>	<p>確かに導入初期には、そのような懸念もあるため、教職員課とともに、小中一貫教育導入校における教職員の配置について、協力して検討を行う予定である。</p>
<p>西山委員</p>	<p>小中一貫教育のあり方については、教育委員会において指導がなされるのか、それとも導入校の判断に任されるのか。</p>
<p>松島課長</p>	<p>例えば今回導入する校区について考えると、富合校区は小中学校合わせて1千人規模の大規模な校区である一方で、芳野校区は市内でも小規模な校区である。それぞれの地域の特色を生かすためには、学校の独自性を発揮する必要があるため、学校の創意工夫を優先していく。但し、各校に共通する事項等については、教育委員会も一緒にあり方を考えていきたいと思う。</p> <p style="text-align: center;">〔採決〕      【原案どおり承認された】</p>

日程第5 報告

・報告(1) 広報広聴関係について

(質疑応答なし)

・報告(2) 平成30年度教育委員会行政視察について

(質疑応答なし)

日程第6 自由討議

・テーマ：外国にルーツを持つ児童生徒への学校での対応について

遠藤教育長

今月は、「外国にルーツを持つ児童生徒への学校での対応について」をテーマに討議を行う。報告(2)にもあったように、11月14日～16日の沖縄県への行政視察でも、沖縄市での取組等について伺ってきたところである。

討議を始めるにあたり、本市の現状等について、事務局から説明をお願いする。

《松島 指導課長 説明》

(資料11-1～4)

・今年度、日本語指導を受けた児童生徒数は54名で、平年並みである。

・例年中国籍の児童生徒が多い傾向にあるが、近年はインドネシア籍の児童生徒が増えているという傾向が見られる。

・本市では、教育国際化推進連絡協議会を設置し、黒髪小学校と桜山中学校を、教育国際化推進センター校として、日本語指導等の拠点校としている。両校には、熊本大学の留学生の子どもさんの在学が多いことが理由としてあげられる。

・指導の方法は大きく2つあり、児童生徒が拠点校に通う「通級」と、指導者が児童生徒のもとに出向く「派遣」である。

・職員は、拠点校である黒髪小学校に4教員、桜山中学校に2教員が配置され、また非常勤職員である「日本語指導補助者」を平成30年度は5人雇用しており、11人体制となっている。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の日本語の習熟度にもよるが、原則的には、1週間に2時間の授業が行われている。</li> <li>・課題として、小学生はほとんど派遣で実施しているが、中学生は通級があり、生徒の在籍校が広範囲に渡るため、他校への移動時に事故の可能性があることや、移動に時間がかかり非効率となることがある。</li> <li>・また、非常勤職員は予算に制限がある一方で、全く日本語が話せない児童生徒の突発的な転入があり、重点的に対応する必要がある場合など、計画的な運用が難しい場合がある。</li> <li>・課題への対応策の一つとして、ICT環境の整備がある。指導教員が翻訳ツールを使用できるよう、教育センターからタブレットを借りているが、児童生徒も使用できるように検討していきたい。</li> <li>・また、担任の先生と連携するための時間の確保が難しい。指導の直前の短時間に打合せを行ったり、夏休みにまとめて打合せを行ったりしているが、上手くいかないこともある現状である。</li> </ul>
遠藤教育長	<p>沖縄市の学校数は、熊本市の6分の1程度であるが、外国籍の児童生徒が、小学校で148人、中学校で45人いる。沖縄市と比較すると、本市は約50人と少ないが、今後増える可能性が大きいと考えられるため、その時にどのような体制がとれるだろうか。現在、熊本大学の留学生の子弟も多いと思うが、熊大はこれから留学生を増やす予定であるか。</p>
西山委員	<p>増やしたいという方向性で動いていると思う。現状では、保育園で受け入れてもらえないという訴えを時々聞く。</p>
遠藤教育長	<p>先日、碩台幼稚園に行った際に、熊大の留学生の子どもさんが多く在籍していた。</p>
西山委員	<p>それでもキャパシティーがあり、入園希望者全員の受入は難しいと思われる。また、大学の近くにイスラムの方々の集会所のような建物があり、礼拝などが行われているようであるが、生活面での受入体制が整っておらず、イスラム系の留学生が苦慮しているように思われる。</p>
遠藤教育長	<p>大学の留学生の方々のニーズとして、小学校、中学校段階で</p>

平成30年12月 教育委員会会議録(要旨)【12月28日(金)】

	<p>困っていることや、今後こうしてほしいといった声を聞くことはあるか。</p>
西山委員	<p>小中学校については、特に聞いたことはない。</p>
遠藤教育長	<p>そういう声があれば、対応を考えていきたいと思う。</p>
西山委員	<p>留学生は少しずつ増えていくと思うが、最近外国人材の受入拡大の方針が出されたため、それによって、今後熊本にどれくらい外国人が来て、どのくらい子どもを帯同する可能性があるのか考えなければならないと思う。</p>
遠藤教育長	<p>これから増えると考えられる外国人労働者の子どもの教育については、全国的な課題である。</p>
西山委員	<p>現在、熊本市で行われている日本語教育は、1対1で実施されているのか。</p>
松島課長	<p>基本的には、1対1での対応である。</p>
西山委員	<p>沖縄では、日本語がかなりできる児童とのやり取りを視察し、スムーズに授業が行われているという感想を持ったが、日本語が全く通じないとなると、かなり労力がかかると思う。</p>
遠藤教育長	<p>沖縄で見た児童は、字もある程度書くことができ、日常会話はできるとのことだった。英語が通じるか、通じないかは、沖縄と熊本の大きな違いである。</p>
西山委員	<p>指導者は、英語ができる、中国語ができるという基準で選ばれているのか。特に語学力は要求されないのか。</p>
松島課長	<p>中国語については、中国籍の在籍者数も多く、保護者との面談の通訳の依頼もあるため、非常に需要が多い。そのため、中国籍の児童生徒に対応する目的で日本語指導補助者を採用する場合には、必ず中国語を話せることを要件としている。また、英語や韓国語などの他言語を話することができる方を優先的に採用している。但し、教員については、英語専攻の教員もいるが、必ずしも他言語が話せる教員が配置されているわけではないと</p>

<p>遠藤教育長</p>	<p>認識している。</p> <p>沖縄市の視察で参考になると思った事例など、感想はないか。</p>
<p>泉委員</p>	<p>沖縄では、やはりアメリカ人の子弟が多かったが、熊本ではアジア圏の子弟がとても多く、生活習慣や宗教などの習慣の違いが、学校の中でどのくらい問題になっているのか、今後受け入れ体制で配慮しなければならないことが出てくるのか、ということが気になった。外国籍の児童生徒の、日本の生活への適応指導も行われているようだが、外国籍の方々への受入側の理解も必要ではないかと思った。</p>
<p>西山委員</p>	<p>イスラム教の場合は、食事が制限される。ある大学では、ハラール(イスラム教で「許されている」)対応メニューを提供する生協があるが、イスラム教徒の子どもの給食の対応はどうか。</p>
<p>森田健康教育課長</p>	<p>学校での個別対応は、アレルギー以外は実施しないことを原則としている。おそらく、それぞれのご家庭で、摂取可能な食事を持って来ている現状と思われる。</p>
<p>松島課長</p>	<p>黒髪小学校において、ムスリム(イスラム教の教徒)用の食事への要望が上がっているようである。可能な範囲では対応することもあるようだが、基本的には、健康教育課長の回答のとおりである。</p> <p>一番懸念されるのは、ラマダンの時期が運動会の練習時期と重なることである。水分や食事を制限している状況で、練習に参加することは危険ということで、保護者と相談のうえ、見学や早退といった対応を取ったという事例を聞いている。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>やってみないと分からない、様々な課題があるようだ。イスラム教以外の別の宗教でも制約がある可能性もあり、個別に対応する他ないようである。</p>
<p>出川委員</p>	<p>日本語指導を受けた児童生徒の数が、小学校に比べて、中学校は減っているが何故か。帰国などによるものか。</p>
<p>松島課長</p>	<p>帰国される例もあるが、小学校である程度日本語ができるようになれば、中学校では必要ないだろうという判断で、指導を</p>

<p>遠藤教育長</p>	<p>はずれるという例もある。また、中学生になって日本に来て、日本語が全く話せない生徒もあり、日本語指導を受ける中学校生徒の約半数は、そのような子どもである。</p> <p>この数字は、外国籍の子どもの数ではなく、日本語指導を受けている子どもの数であるため、日本語ができる外国人は、この数字に入らないということではないか。</p>
<p>松島課長</p>	<p>そうである。</p>
<p>出川委員</p>	<p>日本語指導を丁寧に行うこととは別に、言葉を学ぶには、日常的な支援が大事であり、転入してきた外国籍の子どもが、友だちをはじめ周囲の人々から言葉を上手に習得していくような環境をつくる支援体制づくりが必要である。熊本市の学校における共通の取組として、各学校で、子どもも資源として考えたチーム体制を教員が整えて支援するようにしてはどうかと考える。また、外国籍の保護者にも、困り事があると思われ、通訳を配置するなど、保護者と連携することのできる体制が必要であると思う。必ずしも各学校に設置する必要はなく、教育委員会や市長部局にそのような場所を設け、ここに行けばコミュニケーションがとれるという情報を伝えられると良いと思う。また、外国籍の子どもが学校の環境に慣れるまで、学校に親やその子どもが使っている言語を話すことができるボランティアを派遣し、その子どもを手助けすることでスムーズに学校になじめないか。このように、学校内での支援体制づくりが必要と考える。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>日本語がまだ上手く話せない児童生徒の、その周囲にいる児童生徒に対する指導はどのように行っているのか。</p>
<p>松島課長</p>	<p>それぞれの子どもの状況に合った対応方法があると思うが、これまでの経験から一例を述べると、全く日本語を話すことができない、中国籍の男の子と女の子がたまたま同時期にある中学校に転入してきたことがあった。まず、その生徒たちが活躍できる場を設けることを考え、総合的な学習の時間に国際理解教育ということで、母国語で中国についての紹介を行ってもらい、また周囲の生徒も日本語で日本のことを紹介し、お互いの相互理解を深めていくという取り組みを行った。担任も中国籍</p>



<p>遠藤教育長</p>	<p>の生徒たちが馴染めるように尽力し、また、同時通訳機能がある電子辞書を学校で購入して教室に設置し、生徒たちが必要に応じて使えるようにし、良い関係ができるようになった。</p> <p>そのような働きかけを学校でどのように行うかが大事である。夏休みなどに、担任の先生などを対象として、教育国際化推進連絡協議会が主催する勉強会を実施しており、その中でこのような事例を紹介するなど、先生方の理解を深めるための取組を実施している。</p> <p>うまくいっていない、トラブルになっているような報告はあるか。</p>
<p>松島課長</p>	<p>担任の関わり次第と思われるところがあり、2年生時には担任の関わりも少なくクラスに馴染めなかった外国籍の生徒が、3年生になって、深く関わりを持つ担任に替わったことで、すっかりクラスに馴染んだという例があった。このようにうまくいっていない例があることも聞いている。</p>
<p>森委員</p>	<p>まずは、言葉が壁となるため、子どもに関しては、きちんと日本語教育を行うことができる体制を整える予算を確保する必要がある。以前、日本に暮らす外国人に関するテレビ番組を見たことがあるが、その中で、子ども以上に親が困っている状況にあるとのことであった。子どもは学校で言葉をはじめ、色々なことを教わり、また子どもは親に比べると柔軟であり、早く日本語を吸収する。ところが、親は日本語を習得する手立てがない上に、子どものように柔軟に受け入れることができず、完全に孤立状態になってしまう。役場に行って、手続き等について外国語で書かれた簡単なチラシ程度のものはあるけれども、それだけでは到底対応できない。例えば、私たちが東南アジアに行くと、日本語で簡単に書いてある一枚の紙を見て窓口で手続きが済ませられるかという、全くわからない東南アジアの言葉では手続はできないのと同じである。そして、全てのことからストレスになってしまう。また、家庭内もうまくいけなくなる。子どもの日本語教育を実施していくためには、保護者の日本語教育も合わせて考えなければならない。このことについては、教育委員会や学校現場の範疇ではなくなるため、総合教育会議等を活用して、親にも日本語教育を受ける機会が保障され、親子セットで日本語教育を実施するようにすべきである。日本</p>

	<p>人の親でも、学校の先生とのトラブルは多い。日本語を使っても意思の疎通ができていない。外国籍の方については、そもそも手段としての言語がないのであるから、意思の疎通ができるはずもない。そうすると、強い不安を抱くし、そのことがトラブルにつながる可能性もある。そのような点からも、親と子をセットにした日本語教育という考え方を持つ必要がある。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>外国籍の児童生徒に必要なことが、学校の通常の教育課程＋日本語指導＋生活の適応指導＋親のサポートと考えると、どこまでが学校の仕事で、どこまでが学校以外の仕事であるか考えなくてはならない。昨年度の行政視察で、夜間中学を視察したところ、ほぼ日本語学校化しているような状況であったが、そこには親の世代も通っており、そのように親の教育の場も一緒に考えていかなければならないと思う。但し、夜間中学校の現状については、そのような状況でいいのかという疑問も感じたので、何か行政として別の手段でサポートできないものか考えるところである。</p>
<p>西山委員</p>	<p>外国人材の活用が進んでいけば、もっと問題が大きくなっていくと思う。教育委員会で対応すべき問題ではないような気もするが、夜間中学で学ぶ外国人が増えてくれば、教育委員会で問題になってくる。熊大の留学生については、半年間の日本語教育があり、国際課という部署で支援も行っているの、このような対応が受けられる親については問題ないと思うが、今後増えてくる外国人材への環境整備が問題になってくる。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>留学生より、仕事で来る外国人について問題となる。市役所全体での取組はどうなっているのか。そういうところとの連携は今まで考えていなかった。</p>
<p>松島課長</p>	<p>市役所ではないが、国際交流会館が画期的な取組を行っている。子どもたちが自主的に、土日に日本語の勉強ができるような講座があり、子どもだけではなく親子で勉強しようという呼びかけもあり、親子で日本語が上達した例もある。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>小中学校における日本語指導に、親も通って指導を受けることはできるのか。</p>

平成30年12月 教育委員会会議録(要旨)【12月28日(金)】

松島課長	数件の例はあると聞いている。
出川委員	外国籍の生徒たちの進路は、主にどのような状況か。
松島課長	全ての生徒の進路は把握していないが、少なくとも先ほど例に挙げた中国籍の男女の生徒は、それぞれ県立高校と市立高校に進学した。
出川委員	日本語で試験が受けられるほどの力がついたということか。
松島課長	そうである。しかも国語で上位の成績を取るほどになっていた。
遠藤教育長	インターナショナルスクールに行く子どももいるかもしれない。東京では、公立小学校に国際学級を設け、外国籍の児童を集めている事例もある。そのように、外国籍の子どもや日本語ができない子どもを集める学校を作ってしまうという手段も考えられる。中心部の子どもの数が減っている学校に、そのような学級を設けることも可能かと思われる。
西山委員	昨年度の行政視察で東京の夜間中学の実態を見て、熊本に設置すれば、熊本でも日本語学校化してしまうのかと心配している。生徒のほとんどが日本に働きに来ている大人であり、そのために夜間中学を設けなければならないのかと疑問を持った。しかし、そのような時代になっているのかもしれない、政府が外国人の活用を言い出した以上は、対応せざるを得ないのかもしれないという気もしている。熊本市としては、夜間中学を設置して、外国人材の求めがあれば、そこで教育を行うという方針まで議論されているのか。
遠藤教育長	夜間中学については、各県に1校は設置しようということになっており、現在県と市で検討を行っているところである。設置する場合、ほぼ日本語学校的なものになるのか、中学校教育を十分に受けられなかった方や不登校の方を対象としたものとなるのかは、現在はまだ夜間中学を設置すべきかについて議論をしている段階であり、わからない状況である。
西山委員	本来は義務教育を受けられなかった方が対象であると思う

	<p>が、それがいつの間にか東京周辺では外国人のための日本語学校になってしまっている。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>もし、夜間中学が外国人のための日本語学校になってしまうならば、必ずしも行政で運営する必要はなく、例えば日本語学校に補助金を交付する方が安価だということもあると思われる。</p>
<p>泉委員</p>	<p>沖縄で、日本語指導教員の質に差があり、人気が偏るという話を聞いた。先ほど、外国籍の生徒が国語の成績が上位になるほどになったという話もあり、熊本市には指導力の高い指導員がいると感じるが、外国籍の児童・生徒が増えてくると、指導員の質を一定に保つために、指導員の基準を明確にする必要があると思われる。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>確かに今は外国籍の子どもたちの数が少ないので、質の高い方を雇用できていると思うが、今後増えてきた場合に同じように対応できるか疑問である。</p>
<p>西山委員</p>	<p>あまり成り手がいないのではないか。現在働いておらず、英語や中国語ができて、指導力があるという人材はそう多くはないと思う。</p>
<p>泉委員</p>	<p>人材の確保が難しい。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>今はどのようにして確保しているのか。</p>
<p>松島課長</p>	<p>ホームページで募集について周知している。現在の指導員からの口コミで応募された方もある。</p>
<p>森委員</p>	<p>指導者の能力等について苦情などないか。</p>
<p>松島課長</p>	<p>皆さん熱心に指導されており、今のところ聞いたことはない。</p>
<p>出川委員</p>	<p>外国籍の児童生徒が転入してきた際、例えば公的にはこのような支援がある、民間ではこういう支援があるということが1枚紙で説明できるようなものを提示できると、子どもを通わせる親も不安がないのではないか。具体的には、日本語教育を行</p>

	<p>っていることや、先ほど聞いた国際交流会館の取組、学校内では教員がチームになって支援していることなどがわかるものを作ってはどうかと思う。日本語への支援体制や生活への支援、そしてどこに相談すればいいということがわかると安心して子どもを預けることができると思う。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>学校だけではなくて、市全体での外国籍の方への支援ということも含めてか。</p>
<p>出川委員</p>	<p>そうである。どの部署がどの言語で作成するかということも考えなければならないが、少なくとも、児童・生徒の親に学校で渡せたらいいと思う。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>日本語であれば、様々な施設等の説明書がある。その英語版や中国語版を作成するということが。あるかもしれないので、確認してみる必要がある。</p>
<p>森委員</p>	<p>今出川委員がおっしゃったことについては、ある程度日本語ができると、自分で説明書等を参考にして窓口に行き、片言の日本語でも手続等ができると思うが、全く日本語がしゃべれない、そういう機会がないという人は、紙一枚読んでも手続等は難しい。そのため、ワンストップで、そこに行けば何でも相談ができるという窓口を設け、必要に応じて外国語を話すことができる職員等が、窓口等で手助けができるようになれば、本当の行政サービスとして機能すると思う。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>教育委員の皆様のご意見を伺って、学校だけではなく、市役所全体でサポートする体制を作らなければならないこと、その一環として、学校でどのようなことをどこまで行うのかを考えていかなければならないということがよくわかった。今後、市長部局との連携について更に考えていく必要があると思った。</p>

〔非公開の審議〕	
日程第3 議 事	
・議第74号 「 <u>熊本市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例</u> 」の一部改正について	《上原青少年教育課長 提出理由説明》  〔採決〕 【原案どおり承認された】
・議第75号 <u>事務の委託に関する規約の廃止について</u>	《森田健康教育課長 提出理由説明》  〔採決〕 【原案どおり承認された】
日程第4 協 議	
・協議(1) <u>学校給食費公会計化に向けた条例(案)について</u>	《森田健康教育課長 説明》
・協議(2) <u>中学校の運動部活動について</u>	《森田健康教育課長 説明》

<p>日程第3 議 事</p>	
	<p>・議第76号 管理職(教頭)の異動について</p> <p>《木楡教職員課長 提出理由説明》</p> <p>〔採決〕 【原案どおり承認された】</p> <p>〔閉会〕</p> <p>遠藤教育長</p> <p>本日の日程は全て終了したので、平成30年12月の定例教育委員会会議を閉会する。</p>